

平成 30 年度香川大学卒業式 学長告辞

本日ここに学士の学位を取得し、卒業式を迎えられた 6 学部、1,226 名の卒業生の皆さんに、香川大学の教職員を代表して心からお祝いを申し上げます。また、本日の卒業式に至るまでの長い年月を支えて来られたご家族の皆様方に敬意と感謝の意を表します。同窓会、後援会をはじめとした関係者の皆様には、ご多忙の中ご臨席賜り誠にありがとうございます。

さて、今日の晴れの日を迎えられた卒業生の皆さん、あらためて入学式当日のこと、そしてそれからの学生生活を思い出してください。期待と不安に満ちた入学式を経て、新たな学問の扉を開き、多くの先生や友人に巡り会われて本日の卒業式を迎えられたことと思います。これから本格的に社会に飛び出していく皆さんにとって、香川大学での学生生活で得た知識や様々な経験が大いに生かされることを学長として期待しています。

香川大学は今年、70 周年を迎えました。1949 年に発足した旧香川大学時代からの本学卒業生の総計は、本日で 55,741 名になりました。県内外には皆さんが驚くほど多数の本学卒業生が活躍しておられます。社会に出られますと、皆さんの先輩に様々な場面で出会うことと思います。実は、これらの先輩のご活躍のお陰で、本学卒業生に対する企業や自治体

様からの評価は年々上がっております。これからは皆さんも香川大学の卒業生 OB、OG としての誇りを胸に、後に続く後輩たちのために頑張ってくださいと思います。

今年は、日本でラグビーのワールドカップが初めて開催されます。ラグビーに興味のある方は知っていると思いますが、'One for all, all for one' という言葉があります。この言葉の真意は、チームの一人一人がチーム全体のために尽くし、一つの目的に向かってチームが一丸となろうということです。ただ、誤解されやすいのは、一丸となって何かを成し遂げるために自分を犠牲にしましょう、という解釈をされる方がいますが、そうではないのです。チームの個々のメンバーはそれぞれが違った視点を持っています。むしろ、皆が意見を出し合いながら一つのゴールを目指すチームこそが本当に強いチームであり、ゴールという果実を得られるのではないのでしょうか。もう一つ、どのプレイヤーも人間ですからミスを行います。それを想定して皆で仲間のミスをフォローしながらトライに結びつける精神を表現しているのだと思います。自分もミスをするし、仲間もミスをするのですが、それを黙ってフォローし合えるチームは本当に強いと思います。さらにミスを予見してその対策もチームとして準備できるようになると万全な組織と言えます。これから皆さんも社会の一員となって、いずれかのチームに所属して活躍することと思います。もちろん個人で能力を発揮して活躍する方もおられるかもしれま

せんが、それでも誰かが支えてくれないと存分な働きはできないでしょう。どうか、卒業生の皆さんには、香川大学で得た様々な知識や経験をもとに自分の意見を臆することなくチームのメンバーに発信し、一方で威張ることなく優しい心で仲間のミスをフォローする人間に育っていただきたいと思います。

話は変わりますが、人の寿命は延び続けています。世界の先進国で2007年に生まれたこどもの約半分は100歳以上生きるのではないかとの推定が最近出されました。ここに卒業式を迎えた皆さんの多くが90歳以上の人生を歩むということになります。ちょっと想像してみてください。今までの皆さんの人生の2倍どころか3倍以上の人生を歩む人がたくさんいるということです。少子高齢化が進む我が国においては、高齢者が如何に元気で社会に貢献しながら生活できるかに国の命運がかかっていると言っても過言ではありません。定年を延長する企業も増えてきました。大学の4年ないし6年間で学んだ知識やスキルだけでは卒業後の長い人生で社会に存分な貢献ができないのではないかと思います。テクノロジーの進化も加速化していますし、地球温暖化やエネルギー問題など地球全体を覆う大きな課題が目白押しです。香川大学では2022年4月に向けて大学院の大幅な改組を計画しています。新しい大学院では卒業生が何回でも大学で学べるような教育・研究体制を整えたいと思っております。いつでも気軽に大学に戻ってきてください。

それでは、卒業生の皆さん、健康にくれぐれも留意して存分の活躍を期待しています。皆さんの前途に栄光がありますよう祈念して私からの送る言葉とします。

平成 31 年 3 月 24 日

香川大学長 笥 善行